

ICTにより教育は 本当に変わるのか？

コンピュータに代表される情報通信技術は日進月歩の発展を見せ、学校現場においても電子教科書の導入などが議論されるようになった。未来の学校はペーパーレスな時代が到来し、情報が縦横無尽に飛び交うバラ色の世界のようにも映る。しかし、教育のあるべき姿を語らずして、テクノロジーだけが導入がされることにに対し、批判的な意見もある。

本シンポジウムでは、世界的視野からICTと教育との関係を研究されているお二人の研究者を迎え、今後の我が国における教育のあり方を考えるにあたって、ICTが担う役割とは何かについて議論する。

講師紹介：

前迫孝憲 (MAESAKO Takanori)
東京工業大学、大阪大学で教育工学を指導する。教育システム情報学会会長。



講師紹介：

西之園晴夫 (NISHINOSONO Haruo)
京都教育大学、鳴門教育大学、佛教大学で教育方法学を指導する。京都教育大学名誉教授。

日時 2015年7月7日(火) 12:30-14:20

会場 京都教育大学 藤森キャンパス
1号館A棟2階 A3講義室 (1-A201)

(京都市伏見区深草藤森町1 JR藤森駅下車徒歩3分 京阪墨染駅下車徒歩7分)

入場無料
申込不要

プログラム

- 12:30-12:40 趣旨説明／講師紹介
- 12:40-13:10 講演Ⅰ「アナログとデジタル：雑音と介入 (RTI)」
大阪大学大学院 教授 前迫孝憲
- 13:10-14:00 講演Ⅱ「ICTによって実現している教育の民主化の国際動向と国内での試み」
NPO 法人 学習開発研究所 代表 西之園晴夫
- 14:00-14:20 総合論議「ICTにより教育は本当に変わるのか？」